

平成30年 第1回定例会

苫小牧港管理組合議会会議録

平成30年2月9日開催

苫 小 牧 港 管 理 組 合 議 会

平成30年 第1回定例会
苫小牧港管理組合議会

平成30年2月9日（金曜日） 午後1時48分開会

○本日の会議に付議した事件

日程第1 会議録署名議員の指名について

日程第2 会期の決定について

日程第3 諸般の報告について

日程第4 議案第1号から第7号について

議案第1号 苫小牧港管理組合職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第2号 平成29年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第4号）について

議案第3号 平成29年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算（第3号）について

議案第4号 平成30年度苫小牧港管理組合一般会計予算について

議案第5号 平成30年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算について

議案第6号 財産の取得について

議案第7号 管理者の専決処分事項の指定変更について

日程第5 一般質問

日程第6 議員提案第1号 苫小牧港管理組合議会議員の派遣について

○出席議員（10人）

1番	赤根 広介 君	6番	首藤 孝治 君
2番	遠藤 連 君	7番	竹田 秀泰 君
3番	沖田 清志 君	8番	藤沢 澄雄 君
4番	神山 哲太郎 君	9番	桜井 忠 君
5番	工藤 良一 君	10番	神戸 典臣 君

○説明員出席者

管 理 者	岩倉 博文 君
専任副管理者	佐々木 秀郎 君
副 管 理 者	佐藤 裕 君
総 務 部 長	浅井 孝人 君
施 設 部 長	佐藤 匡之 君

港 湾 振 興 室 長	池 渕 雅 宏 君
港 湾 振 興 課 長	中 谷 伸 二 君
総 務 課 長	小 林 啓 司 君
業 務 経 営 課 長	三 田 弘 志 君
計 画 課 長	平 山 雅 樹 君
施 設 課 長	玉 置 淳 二 君
会 計 管 理 者 兼 出 納 室 長	成 田 勉 君
総 務 課 長 補 佐	長 谷 川 卓 君
業 務 経 営 課 長 補 佐	山 崎 直 人 君
施 設 課 長 補 佐	白 川 友 秀 君

監 査 委 員	紺 谷 ゆ み 子 君
監 査 委 員	渡 辺 満 君
監 査 委 員 事 務 局 長	前 田 正 実 君
監 査 委 員 事 務 局 主 幹	桐 木 賢 君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	小 林 啓 司 君
庶 務 係 長	長 谷 川 卓 君
議 事 係 長	内 山 隼 典 君
書 記	西 村 友 介 君

○開会

○議長（神戸典臣君） これより、本日をもって招集されました平成30年第1回定例会を開会いたします。

○開議

○議長（神戸典臣君） それでは、本日の会議を開きます。

○会議録署名議員の指名

○議長（神戸典臣君） 日程第1「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、会議規則第85条の規定により、議長において、竹田秀泰君及び藤沢澄雄君を指名いたします。

○会期の決定

○議長（神戸典臣君） 日程第2「会期の決定」を議題といたします。

本定例会の会期は、本日1日といたしたいと存じますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、会期は、本日1日間と決定いたしました。

○諸般の報告

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第3「諸般の報告」を行います。

監査委員より、平成29年度9月から12月までの現金出納検査の結果の報告がありました。

既に配付しております諸般の報告に報告書の写しがございますので、後ほど御覧ください。

○議長（神戸典臣君） 次に、議案の審議に先立ちまして、管理者から発言を求められておりますので、これを許します。

管理者、岩倉博文君。

○管理者（岩倉博文君） 私からは、平成30年度の港づくりに臨む所信と施策の概要について申し上げます。

人、物、情報などのグローバル化が進展し、世界の動きはダイレクトに苫小牧港に影響をもたらしております。

世界経済の今後の動向について、IMFによりますと、日本を含む先進国、新興市場国ともに、回復に力強さを増しており、経済成長の勢いは安定的に拡大しつつありますが、とりわけアジア地域は、引き続き、世界の経済成長の半分以上を生み出すと予測されております。

北海道経済につきましては、設備投資の増加等により緩やかな回復基調が続くとされ、インバウンドの増加、そして、海外景気の回復を背景に、道産品の輸出事業に取り組む道内企業・団体の動きが活発化していることから、移出、輸出ともに増加が見込まれております。

苫小牧港の平成29年の取扱貨物量は、速報値ではありますが、1億987万トンと過去最高を記録し、外貿取扱貨物量は前年より9.5%、外貿コンテナ取扱個数も8.9%と高い伸びを示しております。

昨年9月には、我が国初となる北極海航路を利用した欧州からの一般貨物船が本港に寄港いたしました。従来のLNG船等に加え、利活用の幅が広がりつつありますが、本港の発展に結びつけていくためには、北極海航路を活用したコンテナ輸送の地域的なハブ港となることが重要なポイントになるのではないかと考えているところであります。

また、苫小牧東部地域では、物流面の優位性に着目した大型物流センターが稼働に向けて準備を進められているほか、東港区国際コンテナターミナルの背後では、フードロジスティクス・イノベーション拠点として、年内に建設される大型冷凍冷蔵倉庫を活用した食産業の集積に向けた動きが進んでいると伺っております。

このような動きは、今後の地域経済の発展に寄与するとともに、本港の利用拡大につながるものと期待しているところであります。

こうした国内外の経済情勢と苫小牧港の現状や課題を踏まえながら、本港の将来像を描く長期構想を策定し、港湾の機能強化と利用促進に取り組むとともに、安心して親しまれる港づくりを進めてまいります。

まず、新年度の予算について申し上げます。

平成30年度の当初予算は、一般会計56億9,240万8,000円、特別会計37億4,233万3,000円、合計94億3,474万1,000円と提案させていただきます。

これに伴う各会計予算と関連議案につきましては、後ほど、専任副管理者から説明をさせていただきます。

次に、平成30年度において取り組む、主な施策について、順次説明をさせていただきます。

まず1つ目は、長期構想の策定でございます。

苫小牧港は、平成19年に改訂した港湾計画に基づき、計画的な整備を着実に進めておりますが、前提とした港湾を取り巻く状況は変化しております。

本港が地域や港湾利用者の要請に応え、北海道と我が国の発展に貢献し、時代の変化に対応した役割を果たしていくためには、さらなる機能強化に向けた取組を推進することが必要と考えております。

このため、平成30年度は、20年から30年先の長期的な視点から、港湾空間の利用の基本的方向を示す長期構想を策定してまいります。

2つ目は、物流を支える港づくりでございます。

本港の内貿取扱量日本一を支えるフェリーとRORO船は大型化が進んでおり、近年、リニューアルされた船舶の輸送能力は約20%増加しております。

そのため、西港区におきましては、安全でより効率的なRORO船の荷役に対応するため、平成29年度に完成いたしました西ふ頭の3バースに引き続き、南ふ頭1号岸壁の整備を進めてまいります。

また、公共南1号上屋の跡地をトレーラーシャシのヤードとして整備を進めるなど、本港地区におけるRORO船ターミナルの再編を進めてまいります。

国際コンテナターミナルにつきましては、物流機能のさらなる高度化を図り、利用者ニーズに対応した運営や施設に関する改善について、関係者とともに取組を進めてまいります。

さらに、ガントリークレーンにつきましては、予備部品のストック計画を見直し、充実を図るとともに、部品の保管やスプレッドの動作確認機能を備えた機材整備棟を建設いたします。

また、老朽化が著しい漁港区の係留施設につきましては、物揚場の改良に合わせて屋根つき岸壁の整備を促進し、衛生的な生産環境を整えてまいります。

ポートセールスにつきましては、トップセールスを始め、あらゆる機会を捉えて、苫小牧港の利用拡大を働きかけてまいります。

さらに、経済成長の著しいアジア地域の活力を取り込み、港勢の発展を図るため、海外セミナー等を開催して、本港の優位性をアピールしてまいります。

また、道産農水産品・加工品の輸出促進を図るため、海上小口混載輸送に対する支援を引き続き実施してまいります。

北極海航路につきましては、定時サービスのコンテナ航路として使われるにはまだ時間を要すると考えておりますが、活用されるときに備えて、船社等に本港を利用する試験輸送の実施を働きかけるとともに、具体的な貨物の輸送シナリオ等の検討を進めてまいります。

3つ目は、安全・安心を支える港づくりでございます。

大規模災害後の港湾機能の早期回復に向けて、苫小牧港港湾BCPの事前対策について、関係機関と協議を進めてまいります。

また、波浪侵食により海岸線が後退した勇払海岸につきましては、離岸堤改良の完成を目指すとともに、護岸等の施設整備について引き続き検討を行ってまいります。

4つ目は、地域とつながる港づくりでございます。

港が身近な空間として親しまれるように、キラキラ公園などで開催される、みなとコンサート等のイベントに、みなとオアシス苫小牧運営協議会等と連携して取り組むとともに、キラキラ公園周辺の環境整備を行ってまいります。

また、クルーズ客船の寄港に関しましては、苫小牧クルーズ振興協議会等と連携して、市民参加型の歓迎行事や地元物産のPR、観光案内を行うとともに、船会社等への誘致活動につきましては、白老港と連携して取り組んでまいります。

以上、平成30年度の港づくりに臨む主な施策について説明させていただきました。

今年は、北海道命名から150年、苫小牧市の市制施行70周年という節目の1年であり、本港は開港から55年目を迎えます。

勇払原野に港を構想し、掘り込むという壮大な計画や事業に携わった多くの先人により、苫小牧港は、本市及び北海道の発展、さらには我が国経済にも大きな役割を果たす港湾に成長してまいりました。

現在、日本では、少子化と高齢化が急速に進んでおり、労働力人口の減少による人手不足と経済の活力低下が懸念されております。

経済が収縮しても活気をもたせるという課題は、日本全体として初めてのチャレンジテーマでもありますし、苫小牧港の経営を担う我々にとっても初めて向き合う事態でございます。

苫小牧港あるいは海上物流にもさまざまな波が押し寄せておりますが、本港の舵取りをどうすべきか、取り巻く時代背景を踏まえ、一步先を読みながら行動してまいります。

今後とも、議長、副議長を始め、議員の皆様、港湾関係者の皆様の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

以上です。

○議案第1号 苫小牧港管理組合職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第4 議案第1号「苫小牧港管理組合職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

説明を求めます。

専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 議案第1号 苫小牧港管理組合職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について御説明申し上げます。

議案等の3ページを御覧ください。

このたびの改正は、地方公務員の育児休業等に関する法律等の改正に伴い関係規定を整備するもので、非常勤職員が一定の要件を満たす場合に、子が2歳に達するまで育児休業の再延長ができることとするなどの改正を行うものでございます。

この条例の施行日は、公布の日でございます。

以上、議案第1号につきまして御説明申し上げます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第1号についてお諮りいたします。

議案第1号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

○議案第2号 平成29年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第4号）について

○議案第3号 平成29年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算（第3号）について

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第4 議案第2号「平成29年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第4号）について」及び議案第3号「平成29年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算（第3号）について」は、関連する案件でありますので、一括議題といたします。説明を求めます。

専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 議案第2号 平成29年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第4号）について及び議案第3号 平成29年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算（第3号）について御説明申し上げます。

初めに、議案第2号、一般会計補正予算につきまして、一般会計補正予算書により御説明申し上げます。

議案等の11ページを御覧ください。

第1条でございます。

歳入及び歳出それぞれ10億3,106万7,000円を減額し、総額46億255万1,000円に補正するもので、当初予算に対し、約18.3%の減となっております。

次に、補正予算の主なものにつきまして、一般会計補正予算に関する説明書の事項別明細書により、御説明申し上げます。

19ページを御覧ください。

歳入予算についてでございます。

第1款分担金及び負担金におきましては、1億7,673万2,000円を減額し、23億4,656万6,000円とするものでございます。これは、母体である北海道と苫小牧市の負担金について、西港区、東港区を合わせまして、北海道は8,905万8,000円、苫小牧市は8,767万4,000円が減となったものでございます。

次に、第2款使用料及び手数料におきましては、3,000万円を増額し、9億9,975万2,000円とするものでございます。これは、西港区の利用船舶の増加により岸壁等使用料が増となったものでございます。

次に、第3款国庫支出金におきましては、4億1,160万円減額し、2億6,502万5,000円とするものでございます。これは、社会資本整備事業費が事業の確定等により減となったものでございます。

次に、第6款繰越金におきましては、平成28年度からの繰越額確定により、西港区、東港区を合わせまして9,416万5,000円増額し、1億3,290万7,000円とするものでございます。

次に、第8款組合債におきましては、5億6,690万円を減額し、8億4,330万円とするものでございます。

これは、国直轄事業費負担金、社会資本整備事業費が事業の確定等によって減となったことにより、公共事業費等債が減となったものでございます。

20ページを御覧ください。

歳出予算についてでございます。

第1款議会費におきましては、6万7,000円を増額し、1,251万5,000円とするものでございます。これは、議員改選に伴う報酬費の増によるものでございます。

次に、第2款総務費におきましては、2,237万7,000円を増額し、6億1,488万7,000円とするものでございます。これは、主に職員住宅解体に伴う工事請負費の増などによるものでございます。

次に、第4款港湾建設費におきましては、10億1,701万1,000円を減額し、11億8,063万9,000円とするものでございます。

これは、国直轄事業費負担金及び社会資本整備事業費が事業の確定等により減となったものでございます。

次に、21ページを御覧ください。

第5款公債費におきましては、2,701万5,000円を減額し、19億432万4,000円とするものでございます。これは、借入額及び借入利率の低下により減となったものでございます。

次に、第6款諸支出金におきましては、948万5,000円を減額し、5億1,668万5,000円とするものでございます。これは、特別会計への繰出金の減によるものでございます。

以上、議案第2号につきまして御説明申し上げます。

引き続きまして、議案第3号港湾整備事業特別会計補正予算につきまして、港湾整備事業特別会計補正予算書により御説明申し上げます。

31ページを御覧ください。

第1条でございます。

歳入及び歳出それぞれ8億5,818万5,000円を減額し、総額26億359万3,000円に補正するもので、当初予算に対し、約24.8%の減となっております。

次に、補正予算の主なものにつきまして、港湾整備事業特別会計補正予算に関する説明書の事項別明細書により御説明申し上げます。

39ページを御覧ください。

歳入予算についてでございます。

第1款使用料及び手数料におきましては、3,000万円を増額し、11億5,710万8000円とするものでございます。これは、西港区の荷さばき地の利用増によるものでございます。

次に、第2款繰入金におきましては、一般会計からの繰入金を948万5,000円減額し、5億1,668万5,000円とするものでございます。

次に、第4款組合債におきましては、8億7,870万円を減額し、9億2,520万円とするものでございます。これは、西港区中央北ふ頭の上屋建設、東港区中央ふ頭の荷役機械建設などの事業費減及び資本費平準化債の借入額の減によるものでございます。

40ページを御覧ください。

歳出予算についてでございます。

第1款総務費におきましては、64万円を増額し、7,413万3,000円とするものでございます。これは、主に人事異動による職員給料等の増によるものでございます。

次に、第3款港湾建設費におきましては、8億2,919万5,000円を減額し、8億2,873万3,000円とするものでございます。これは、西港区中央北ふ頭の上屋建設などの事業費確定により減となったものでございます。

次に、第4款公債費におきましては、2,963万円を減額し、12億3,625万4,000円とするものでございます。これは、借入額及び借入利率の低下により減となったものでございます。

以上、議案第3号につきまして御説明申し上げます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第2号及び第3号についてお諮りいたします。

議案第2号及び第3号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(神戸典臣君) 御異議なしと認めます。

よって、議案第2号及び第3号は原案のとおり可決されました。

○議案第4号 平成30年度苫小牧港管理組合一般会計予算について

○議案第5号 平成30年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算について

○議長(神戸典臣君) 次に、日程第4 議案第4号「平成30年度苫小牧港管理組合一般会計予算について」及び議案第5号「平成30年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算について」を一括議題として、提出者の説明を求めます。

専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者(佐々木秀郎君) 議案第4号 平成30年度苫小牧港管理組合一般会計予算及び議案第5号 平成30年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算につきまして、その大要を御説明申し上げます。

初めに、議案第4号一般会計予算につきまして、一般会計予算書により御説明申し上げます。

議案等の49ページを御覧ください。

第1条でございます。

歳入及び歳出予算の総額は、56億9,240万8,000円であり、前年度当初予算と比べ9,751万2,000円、約1.7%の増となっております。

次に、歳入予算について各款ごとの予算額と、その主な内容につきまして、一般会計予算に関する説明書の事項別明細書により御説明申し上げます。

61ページを御覧ください。

第1款分担金及び負担金におきましては、23億8,375万7,000円であり、前年度当初と比べ1億3,954万1,000円、約5.5%の減となっております。これは、母体である北海道及び苫小牧市からの負担金であり、西港区、東港区を合わせて、北海道は14億938万3,000円、苫小牧市は9億7,437万4,000円でございます。

次に、62ページを御覧ください

第2款使用料及び手数料におきましては、10億207万2,000円であり、前年度当初と比べ、3,232万円、約3.3%の増となっております。これは、入港料、岸壁や港湾施設用地等の港湾施設使用料などの収入でございます。

次に、64ページを御覧ください。

第3款国庫支出金におきましては、7億762万4,000円であり、前年度当初と比べ、3,099万9,000円、約4.6%の増となっております。これは、国の社会資本整備総合交付金などであり、増額の主な要因は、西港区ふ頭間道路整備や西港区勇払ふ頭幹線等の道路改良の

要求額の増などによるものでございます。

次に、65ページを御覧ください。

第6款繰入金におきましては、1億4,551万6,000円であり、前年度当初から皆増となっております。これは、特別会計に財源不足が生じるため、一般会計から資金の繰り入れを行い、これを補填しているものでありますが、今年度その一部である特別会計の西港会計分においては、剰余が生じる見込みであるため、一般会計に繰り入れるものでございます。

次に、67ページを御覧ください。

第9款組合債におきましては、14億3,900万円であり、前年度当初と比べ2,880万円、約2%の増となっております。これは、国の直轄事業における管理者負担分や社会資本整備事業の実施に要する起債でございます。

次に、歳出予算についてでございます。

68ページを御覧ください。

第1款議会費におきましては、1,415万円であり、前年度当初と比べ170万2,000円、約13.7%の増となっております。これは、中国との定期交流に伴う旅費の増によるものでございます。

次に、69ページを御覧ください。

第2款総務費におきましては、5億6,299万2,000円であり、前年度当初と比べ1,951万8,000円、約3.4%の減となっております。これは、前年度に実施いたしました職員住宅解体工事の完了により、関連費用分が減となったものでございます。

次に、72ページを御覧ください。

第3款港湾管理費におきましては、4億8,093万2,000円であり、前年度当初と比べ、1億993万1,000円、約29.6%の増となっております。これは、港湾施設に係る維持管理に要する費用であり、増額の主な要因は、北ふ頭遊歩道整備工事や勇払地区海岸施設配置検討委託業務の増などによるものでございます。

次に、73ページを御覧ください。

第4款港湾建設費におきましては、22億6,075万円であり、前年度当初と比べ6,310万円、約2.9%の増となっております。これは、国の直轄事業における管理者負担分や社会資本整備事業の実施に要する費用でございます。

次に、74ページを御覧ください。

第5款公債費におきましては、17億4,815万1,000円であり、前年度当初と比べ、1億8,318万8,000円、約9.5%の減となっております。これは、組合債の償還などに要する費用であり、元金の償還と利子の減によるものでございます。

次に、75ページを御覧ください。

第6款諸支出金におきましては、6億2,293万3,000円であり、前年度当初と比べ、

1億2,548万5,000円、約25.2%の増となっております。これは、特別会計の東港会計分への繰出金の増によるものでございます。

以上、議案第4号につきまして御説明申し上げます。

引き続きまして、議案第5号港湾整備事業特別会計予算につきまして、港湾整備事業特別会計予算書により御説明申し上げます。

87ページを御覧ください。

第1条でございます。

歳入及び歳出予算の総額は37億4,233万3,000円であり、前年度当初予算と比べ3億927万7,000円、約9%の増となっております。

次に、歳入予算について各款ごとの予算額と、その主なものにつきまして、港湾整備事業特別会計予算に関する説明書の事項別明細書により御説明申し上げます。

97ページを御覧ください。

第1款使用料及び手数料におきましては、11億4,450万円であり、前年度当初と比べ1,739万2千円、約1.5%の増となっております。これは、上屋、荷さばき地、荷役機械、冷凍コンセントなどの使用料収入でございます。

次に、99ページを御覧ください。

第2款繰入金におきましては、6億2,293万3,000円であり、前年度当初と比べ1億2,548万5,000円、約25.2%の増となっております。これは、一般会計の東港会計分からの繰入金の増によるものでございます。

次に、第3款諸収入におきましては、4,350万円であり、前年度当初と比べ3,890万円、約845.7%の増となっております。これは、平成29年度特別会計の西港会計分における仮払消費税予定額の増により、平成30年度確定申告に伴う消費税の還付額が増となったものでございます。

次に、100ページを御覧ください。

第4款組合債におきましては、19億3,140万円であり、前年度当初と比べ1億2,750万円、約7.1%の増となっております。これは、ふ頭用地造成事業や上屋建設事業などの実施に係る事業債でございます。

次に、歳出予算についてでございます。

101ページを御覧ください。

第1款総務費におきましては、5,293万9,000円であり、前年度当初と比べ816万8,000円、約18.2%の増となっております。増額の主な要因は、消費税の納付額の増などによるものでございます。

次に、103ページを御覧ください。

第2款港湾管理費におきましては、4億6,719万1,000円であり、前年度当初と比べ

371万8,000円、約0.8%の増となっております。これは、上屋、荷さばき地などの施設運営に係る光熱水費や荷役機械等の維持管理に要する費用であり、増額の主な要因は、荷役機械保守点検委託業務や荷役機械予備品購入費の増などによるものでございます。

次に、105ページを御覧ください。

第3款港湾建設費におきましては、19億1,494万6,000円であり、前年度当初と比べ、2億5,701万8,000円、約15.5%の増となっております。

これは、ふ頭用地造成事業や上屋建設事業に要する費用でございます。

次に、107ページを御覧ください。

第4款公債費におきましては、11億6,074万1,000円であり、前年度当初と比べ1億514万3,000円、約8.3%の減となっております。これは、港湾整備事業債の償還に要する費用であり、減額の主な要因は、元金の償還と利子の減によるものでございます。

次に、108ページを御覧ください。

第5款諸支出金におきましては、1億4,551万6,000円であり、前年度当初から皆増となっております。これは、特別会計の西港会計分で生じた剰余を、一般会計へ繰り出すものでございます。

以上、議案第5号につきまして、御説明申し上げます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第4号及び第5号についてお諮りいたします。

議案第4号及び第5号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第4号及び第5号は原案のとおり可決されました。

○議案第6号 財産の取得について

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第4 議案第6号「財産の取得について」を一括議題として、提出者の説明を求めます。

専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 議案第6号 財産の取得につきまして御説明申し上げます。

議案等の115ページを御覧ください。

この議案は、平成30年1月16日に仮契約を締結しました勇払マリーナ上下架クレーンにつきまして、地方自治法第96条第1項第8号及び苫小牧港管理組合議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を得ようとするものでございます。

内容といたしましては、勇払マリーナに配置しております上下架クレーンにつきまして、老朽化により新規購入するものでございます。

契約金額は7,495万2,000円、契約の方法は一般競争入札、契約の相手方は株式会社ベルポート北海道でございます。

以上、議案第6号につきまして御説明申し上げます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第6号についてお諮りいたします。

議案第6号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

○議案第7号 管理者の専決処分事項の指定変更について

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第4 議案第7号「管理者の専決処分事項の指定変更について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本件につきましては、提案説明を省略し、直ちに表決に付したいと存じますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

議事進行の都合により、暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は14時45分を予定しております。

午後2時28分 休憩

午後2時45分 再開

○議長（神戸典臣君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

○一般質問

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第5「一般質問」の通告が、竹田秀泰君、神山哲太郎君、工藤良一君、首藤孝治君からありますので、順次、これを許します。

竹田秀泰君。

○議員（竹田秀泰君） それでは、私から2点ばかりお聞きをしたいと思います。

最初に、苫小牧港長期構想についてお伺いしますが、2点目の食料一大拠点となるフードコンプレックス構想と北極海航路を見据えたハブ機能形成については、市長のほうから説明がありましたので、省きたいというふうに思います。

それでは、1点目の苫小牧港の将来像についてお伺いしたいと思います。

まず最初に、港湾管理者である市長にお伺いをしたいと思います。

先日、ポートセールスで台湾を訪れ、台北でのセミナーを始め、高雄港などを視察してまいりましたが、私たちも同行させていただきましたけれども、相手側から大変友好的に対応していただいた印象がありますが、市長の手応えや台湾の印象などをお伺いしたいと思います。

次に、世界の港を多く見て港湾を熟知しています佐々木専任副管理者に、佐々木専任副管理者が描く将来の苫小牧港とはどのようなものなのか、今回の長期構想とは別に少し大きな夢と希望を持った構想はないのか、お聞きをしたいと思います。

次に、苫小牧港長期構想が平成30年度に策定される予定ですが、これまで、長期構想策定に向けて何回か検討委員会が開催され、検討内容も記されていますが、その中で何点かお聞きをしたいと思います。

まず、ダブルポートを生かしたフライ&クルーズ拠点形成とは、観光客誘致が最大の目標と考えますが、どのようなことを検討しているのか、お聞きをしたいと思います。

次に、苫小牧西港区中央北ふ頭の旧水面貯木場についてお聞きをしたいと思います。

現在、この貯木場は活用されておらず、現在建設されています中央北ふ頭上屋の隣接地でもあり、非常にもったいない土地利用となっていますが、これまで、将来的に埋立てを行い活用すると伺っていますけれども、本当に埋立てする計画があるのかどうか、それについてお聞かせください。

埋立てを行うのであれば、必然的に岸壁の新設も考えられますけれども、あわせて計画がどのようなになっているか、お聞きをしたいと思います。

次に、港湾整備事業について4点ほどお伺いをしたいと思います。

最初に、ガントリークレーン機材整備棟についてお聞きをしたいと思います。

平成29年度の建設を取りやめた内容につきましては市長から説明があったと思うのですが、新たな設計委託が必要だと私は考えますが、予算の中で整備棟の設計について、委託費の中にはなかったと考えますが、どのようになっているのか、お伺いをしたいと思います。

また、前回の議会では、大きさ、平面計画については検討段階と言われていますが、現状として、位置や大きさ等は固まってきているのか、それをお聞きしたいと思います。

次に、北ふ頭緑地整備についてお伺いします。

キラキラ公園とハーバーFビルの東側に隣接していますこの用地は、現在、シャーン用の駐車場として利用されていますが、この用地をキラキラ公園と一体化した公園づくりを進めると聞いていますけれども、どのような計画になっているのか、工事地区とあわせてお伺いをしたいと思います。

あわせて、港開発が現在新社屋建設を進めており、旧社屋跡地跡に緑地化をし、キラキラ公園とフェリーターミナルをつなぐ動線の結節点としての役割を持たせたいと言っていますが、キラキラ公園とフェリーターミナルをつなぐ動線の構想はあるのかどうか、それについてお伺いをしたいと思います。あれば、どのような構想なのか、いつごろから整備をしていく考えなのか、それについてお答えください。

次に、監視カメラ装置の設置についてお伺いをいたします。

港湾の管理業務に資する目的で、監視カメラの設置を検討していると聞いていますけれども、具体的にはどのような目的で設置する考えなのか、お聞かせください。

また、何台くらい設置を検討しているのか、どのように監視をするのか、モニターなどで庁舎で一括管理できるのか、それについてもお伺いをしたいと思います。

また、今後の計画についてあれば、考えている範囲で教えていただきたいと思います。

最後に、勇払ふ頭道路と中央南ふ頭道路交差点改良についてお聞きをします。

これまで、何回か臨港道路の朝晩の渋滞緩和に向けて改修工事が進められてきていますが、現状として、まだ、夕方退社時間帯の渋滞が勇払ふ頭道路と中央南ふ頭道路の交差点などで見受けられますけれども、渋滞解消に向けて、これまでの取組と今後の渋滞解消に向けた取組がありましたらお聞きをして、1回目の質問としたいと思います。

○議長（神戸典臣君） 管理者、岩倉博文君。

○管理者（岩倉博文君） 竹田議員の質問にお答えをさせていただきます。

台湾におけるポートセールスについてのお尋ねがございましたが、答弁の前に、今月7日未明でありましたけれども、台湾東部で発生をいたしました地震の被災者の皆様方に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

私が会長を務めております苫小牧港の関係者で構成する苫小牧港利用促進協議会では、先月2

1日から24日に、台湾におきまして、北海道の道産食品の輸出拡大の取組と連携し、セミナーの開催や、道のフェア、商談会の視察などを行ってまいりました。セミナーには、台湾の船会社などの物流業者や商社などのほか、苫小牧日台親善協会の会員など約120人が出席する中、苫小牧港の機能や役割、台湾との輸送状況などを紹介し、認知度を高めていただいたこと、そして、台湾と苫小牧との経済を含めたさまざまな交流をする機会ともなりました。現地関係者と情報交換をする中では、輸送時間短縮のため、苫小牧港と台湾との航路が必要という御意見もありました。

また、道が主催をしました道産食品のフェアなどの視察では、利用促進協議会の支援による海上小口混載で輸送した菓子や野菜、水産加工品などの商品には、平日の昼間にもかかわらず、大勢の来場者がこれらの食品に関心を寄せている様子から、改めて人気の高さを確認することができ、大変有意義であったものと感じております。

かつて、台湾との間には、昭和63年から平成24年まで国際コンテナ定期航路があり、シンガポールの海運会社が週1回運航しておりましたが、貨物の不足などから運航を取りやめた経過がございます。今回の台湾でのセミナーや商談会などで道産食品に対する需要を把握できましたので、台湾との航路開設に向け取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 苫小牧港の将来のイメージに関する私の考えをというお尋ねでございます。

御承知のとおり、苫小牧港の将来の姿につきましては、現在、長期構想の検討を有識者や関係者の皆様方の御意見を伺いながら進めているところであります。その原案の作成に当たりましては、私の考えや思いもかなり反映をさせていただいているところです。

しかしながら、現在検討中の案の中には、世界の社会情勢や経済環境がその実現性を大きく左右するような北極海航路における地域ハブ構想やフライ&クルーズ拠点、こういったプロジェクトなども含まれております。

このため、これらの実現に向かいますとは、単に施設整備を目指すだけでなく、我々管理組合を初めとしまして、港湾管理者が一丸となって、これまで以上に多方面で継続的な取組を行っていく必要があると感じております。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 私からは、監視カメラについてお答えさせていただきます。

本港の公共ふ頭は非常に高い利用状況であり、岸壁や荷さばき地の使用につきましては、使用者からの申請どおりの使用がされているか、また、次の使用に支障がないかなどの確認が必要です。

この施設使用状況の確認を初め、災害時や事故・事件発生時における確認、不法投棄や迷惑行為など利用上支障となり得る状況の確認などにつきましては、現在、直接現地に出向く以外に方法がないことから、監視カメラを設置し、日々の管理業務の効率化を図ってまいりたいと考えております。

現在、監視カメラは、西港区で14台、東港区で3台程度の設置を予定しており、監視体制につきましては、職場内にモニター等を設置し、一括管理できる仕組みを考えております。

なお、勇払マリーナにおきましては、防犯対策上の観点から、別途、監視カメラの設置を検討しております。

私からは以上です。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） フライ&クルーズの拠点の形成についてのお尋ねでございますけれども、北海道への外国人旅行者が年間200万人を突破し、道では2020年に年間500万人の受け入れを目標に掲げる中、近年、多くの外国人観光客が乗船するクルーズ船の我が国への寄港が増加しております。これらのクルーズ船は、中国発着のものが多く、旅行日程より西日本に比べて東日本への寄港は少なくなっております。

このため、当管理組合といたしましては、苫小牧港でクルーズ需要を取り込んでいく方法といたしまして、発着港までの移動に航空機を利用し、広域的なクルーズを可能とするフライ&クルーズに注目しておりまして、新千歳空港に近接している当港のポテンシャルを生かしまして、長期構想では東港区において、大型クルーズ船にも対応可能な旅客船ふ頭の位置づけを検討してまいりたいと考えております。

次に、中央北ふ頭の旧水面貯木場についてのお尋ねでございますが、中央北ふ頭の水面貯木場は、原木の保管場所として昭和49年から利用されてきたところでございますが、平成4年を最後に当該施設の利用がなくなったことから、平成25年に貯木水面の一部5.9ヘクタールを建設残土を受け入れる海面処分用地に用途変更しています。

当該処分用地では、港湾工事から発生する建設残土を投入し埋め立てているほか、現在、北海道が進めている仮称苫小牧中央インターチェンジの建設工事から発生する土砂の受入れも予定しております。

海面処分場に隣接する中央北ふ頭は、西港区の中でも特に混雑していることから、混雑の緩和、荷役の効率化を図る上で埋立地前面の岸壁整備は必要と考えておりまして、平成30年度に直轄事業として岸壁整備を要求しているところでございます。

続きまして、港湾整備事業に関する御質問にお答えいたします。

まず、機材整備棟の進捗状況についてのお尋ねであります。平成29年度に建設を予定していた備品倉庫については、ガントリークレーンの効率的で迅速な整備作業を行うため、コンテナを保持する装置でありますスプレッドの動作確認や保守点検業者が常駐する事務所などの機能を

追加し、機材整備棟として、見直したところでございます。

この機材整備棟の調査設計は、平成29年度予算におきまして予定していた建設費である工事請負費から委託料に流用させていただき、昨年11月から実施しておりまして、現在は、地質調査を終え、基礎形式や室内の詳細レイアウトなどの検討を進めております。

機材整備棟は、コンテナターミナルの北側に延床面積約700平方メートルの建設を想定しておりまして、平成30年度の着工完成を予定しています。

次に、キラキラ公園などの整備についてのお尋ねですが、ハーバーFビルの東側に隣接する用地については、キラキラ公園で行うイベント時の駐車スペースのほか、津波発生時には、緊急物資の仕分け及び一時保管場所などの多目的な利用を計画しておりまして、整備については、社会资本整備総合交付金事業を活用するため、予算配分に応じて進めていかざるを得ないと考えております。

次に、キラキラ公園とフェリーターミナルを結ぶ動線の整備についてでございますが、フェリーターミナル、キラキラ公園及びぷらっとみなと市場には、多くの市民や観光客が訪れていることから、以前よりこの3地区を結ぶ構想はございましたが、徒歩で往来するには距離もあり、全線整備に向けましては歩行者等の十分な利用が見込まれることが必要と考えております。

このため、平成30年度は、一定程度の需要が見込まれる、キラキラ公園から苫小牧港開発株式会社の、社屋背後の庭園までの区間に整備をとどめまして、旧臨港鉄道跡地に遊歩道を整備していきたいというふうに考えております。

最後となりますが、勇払ふ頭幹線・中央南ふ頭幹線交差点改良についてのお尋ねでございますが、交差点周辺の渋滞対策については、平成27年の5月から、学識経験者、行政機関及び立地企業で構成される検討会において議論され、平成28年3月に、交差点内の車線の追加と信号機の時間調整を行う対策案をまとめました。

この対策案に基づき、平成29年度は、中央南ふ頭幹線の厚真町方面からトヨタ自動車工場に向かう車線について、当管理組合が右折車線の延長工事を実施しまして、また警察により信号機の時間調整が行われております。

引き続き平成30年度は、交差点を挟んだ反対側の車線につきまして、現状の2車線から、左折専用レーンを増設した3車線に改良する工事を行い、交差点改良を完了させる予定としております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 竹田秀泰君。

○議員（竹田秀泰君） それでは、何点か再質問させて頂きたいと思います。

まず、長期構想の中で、答弁の中で、東港区の大型船クルーズ船に対応可能な旅客船ふ頭の位置づけとはどのようなことを考えているのか、現在持っている考えがあれば教えていただきたいというふうに思っております。

2点目に、旧水面貯木場ですが、新しい岸壁と広い後方地があれば新たな事業が展開できるというふうに考えていますけれども、何か素案があるのかどうか、持っていれば教えていただきたいと思います。

次に、港湾整備の中で、ガントリークレーン倉庫ですけれども、現在、どのくらいの備蓄品を蓄えているのか、29年度までどのくらいパーセンテージで、どのくらい数を持っているのか、それから、30年度も一応購入計画があると思いますけれども、30年度に購入したらどのくらいの備蓄量になるのか、それについてお伺いをしたいと思います。

監視カメラについては、平成30年度から設置していくという考えでいいのかどうか、年度がなかったものですから、それについて教えていただきたいと思います。また、監視カメラで人間の動向がある程度わかるような性能のようですが、どの程度の性能を考えているのか、もし素案があれば教えていただきたいと思います。

あとは、交差点の改良ですけれども、今回工事が終了すれば、勇払ふ頭の道路はある程度終わると思いますが、港湾全体でまだ渋滞箇所があるのか、今後考えている場所があれば、考えを教えてください。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 私からは、監視カメラについての再度のお尋ねについて、お答えさせていただきます。

監視カメラの設置は平成30年度を予定しております。また、監視カメラにつきましては、現在、設計を進めており、性能につきましては、夜間でも船舶の離着岸や事故等の発生時における施設状況などが確認できるものを検討しております。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） 竹田議員からの再度の御質問にお答えいたします。

まず、長期構想に関する御質問のうち、大型クルーズ船に対応する旅客船ふ頭についてのお尋ねですが、長期構想で、東港区に位置づけを検討している旅客船ふ頭については、既存の防波堤や泊地の機能を最大限に活かすものと考えておまして、少なくとも北海道に寄港実績のある最大クラスのクルーズ船の利用が可能な規模になるものと考えております。

この構想につきましては、国の大型クルーズ船ターミナルの建設方針に沿って検討しており、旅客ターミナルビルの建設にはクルーズ船社の投資が必要となるため、実現に向けては、この構想に賛同して協力していただけるパートナーを得ることが重要なポイントになるものと考えております。

次に、旧水面貯木場の活用についてのお尋ねですが、中央北ふ頭は、紙製品の原料や飼料、鋼材などさまざまな貨物が扱われており、西港区でも特に混雑しており、多くの沖待ちが発生して

おります。

水面貯木場跡地については、製紙業や飼料製造業などの既存の貨物を輸送する船舶の混雑緩和と輸送の効率化を図るとともに、新たな貨物需要にも対応することができる岸壁として活用していきたいと考えております。

続きまして、港湾整備事業に関する再度の御質問にお答えいたします。

まず、ガントリークレーンの予備品についてのお尋ねですが、現時点で計画している約2,800個の予備品のうち、平成29年度末には約2,100個をストックし、その保有率は約75%となっております。また、平成30年度につきましては、電力ケーブルや油圧ホースなど約450個を計画しておりまして、保有率は約90%となる見込みでございます。

なお、予備品ストック計画につきましては、常に見直しを図りながら、ガントリークレーンの安定稼働に向けて、予備品の充実に努めてまいりたいと考えております。

最後に、渋滞緩和についてのお尋ねでございますが、交差点改良を進める西港区の勇払ふ頭幹線と中央南ふ頭幹線の交差点周辺は、朝夕の通勤時間帯で渋滞が発生しているものの、他の臨港道路について渋滞対策が必要なところはないものと認識しております。しかしながら、降雪時の国際コンテナターミナルのクローズによって、ターミナルゲートから苫東厚真発電所までトレーラーが道路を塞いでしまうことが散見されるため、この対応につきましては、検討を進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 以上で、竹田秀泰君の一般質問を終了いたします。

神山哲太郎君。

○議員（神山哲太郎君） それでは、通告に従いまして、順次質問をさせていただきたいと思っております。

一部、竹田議員と重複するようなところがあるかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思っております。

初めに、港湾計画について計画的に整備が進められていると考えておりますが、これまでの整備状況の進捗についてお聞かせいただきたいと思います。

次に、現在の港湾計画は平成19年に改定しておりますが、このたび、計画の基礎と考えられるべき長期構想についてスケジュール的な変更が示されています。その理由と御見解をお聞かせいただきたいと思います。

また、次期港湾計画の改定については、国内外の物流動向などをどのように見据えて、現実的な戦略を立てて展開していくかが非常に重要な鍵と考えられます。そこで、港湾管理者である岩倉市長は苫小牧港の将来はどのようにあるべきと考えられておられるのか、お聞きしたいと思います。

続きまして、国際コンテナターミナルについてです。

平成29年から中国・韓国定期コンテナ航路が増便され、取扱貨物量の増加が期待される国際コンテナターミナルです。そこで、コンテナターミナル周辺の整備と利用の促進についてお伺いしたいと思います。

コンテナターミナル周辺の土地を活用した物流拠点が平成31年操業開始となっております。このように大型施設の進出がありますが、そのほかに土地利用の問い合わせ等やニーズ調査はしているのか、また、今後の利用促進に向けてどのようにされようとしておられるのか、お聞かせいただきたいと思います。

また、ターミナル近郊の津波避難場所として避難タワーの設置等が求められておりましたが、その後、どうなっているのか、スケジュール等を含めてお聞かせいただきたいと思います。

続きまして、ポートセールスについてお聞かせいただきたいと思います。

初めに、海外活動の拡大と今後についてであります。

岩倉市長は、これまで、トップセールスを始め、北海道や苫小牧市などが実施する企業誘致活動などで積極的に苫小牧港の優位性を国内外にPRしてまいりました。また、これまで6度に渡って海外での活動を展開してまいりましたが、まず、これまでの総括と手応え、今後の展開をどのようにお考えなのか、お聞かせいただきたいと思います。結果が全てではありませんが、相手方との関係構築や継続をどのようにしていくのか、また、平成30年度については、どこでどのようなポートセールスを行うのか、お聞かせいただきたいと思います。

続きまして、北極海航路についてお伺いしたいと思います。

欧州と東アジアを最短距離で結ぶ北極海航路は、関係者の御努力で、平成29年6月にはモジュール船が、9月には、ばら積み貨物船が寄港し、苫小牧港がハブ港として関係者から大きな期待が寄せられております。そこで、現段階における課題、メリット・デメリットでありますけれども、戦略的な展開について検討されていると思いますが、お聞かせいただきたいと思います。

最後になりますが、漁港区の将来についてであります。

平成28年3月に策定した漁港区将来ビジョンは約10年後を想定した利用構想図があります。今後これらについて具体的に計画というか実施計画はどうされるのか、まずお聞かせいただきたいと思います。

また、北海道の食や観光に注目が集まっております。特に食については、苫小牧の水産ブランドが口コミで広がり、年々訪れる人が増えております。より魅力ある漁港区を発信していくために、ホームページの充実やSNS等でのPRが必要と思いますが、考えをお聞かせいただきたいと思います。

以上、1回目を終了させていただきます。

○議長（神戸典臣君） 管理者、岩倉博文君。

○管理者（岩倉博文君） 神山議員の質問にお答えさせていただきます。

苫小牧港の将来についてお尋ねがございました。

苫小牧港の将来像につきましては、現在、策定に取り組む長期構想において、時代の変化を的確に捉えるとともに、単に物流面から道民生活と北海道経済を支える役割を意識するだけではなく、北海道の経済をリードし、東南アジアを初めとする世界と北海道を結ぶ物流拠点を意識することが必要と考えており、現在の苫小牧港が抱える課題の解決や、利用者から寄せられる要請に応えるだけではなく、北海道あるいは我が国の発展に貢献するために必要となるプロジェクトを盛り込んでいきます。

例えば、労働力不足に対応した国内物流拠点にふさわしい次世代型内貿ユニットロードターミナルや、国際コンテナターミナルを中心に食関連産業の立地や物流施設の集積を図った国内外に道産食品を供給する北海道の食のゲートウェイなど、我が国及び北海道の経済を支える役割を果たすため、港湾の機能強化に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 私からは、ポートセールスの一環として実施しております海外セミナーについてのお尋ねに回答させていただきたいと思っております。

苫小牧港の関係者で構成いたします苫小牧港利用促進協議会では、ポートセールスの一環といたしまして、平成23年度の上海を皮切りにいたしまして、翌年度以降、大連、ジャカルタ、ウラジオストク、ベトナム、シンガポール、そして、今年度は、先月、台湾において海外セミナーを開催してまいりました。

また、昨年度からは、北海道の道産食品の輸出拡大の取組と連携するということで、現地の船会社などの物流業者だけではなく、道産食品を扱う商社や北海道からの出店者などにも本港の機能や役割などをアピールしてきたほか、現地の政府や物流業者との意見交換などでさまざまな問題、課題なども把握できたところであります。このことは、今後の苫小牧港の利用促進に有意義なものとなっております。

海外セミナーというのは、即効的な効果が期待できないものではありませんが、こうした現地関係者との交流を継続していくことで苫小牧港の認知度は確実に向上していくことで、今後のビジネスの展開につながる可能性はあるものと考えております。

今回の海外セミナーにつきましては、今後、利用促進協議会で検討されることとなりますが、国、道などの農水産品等の輸出拡大の取組と連携し、これまで開催していない地域で、道産食品の需要が見込まれます近隣のアジアを対象に検討してまいりたいと考えております。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 私からは、コンテナターミナル周辺の利用促進と北極海航路に関してお答えさせていただきます。

まず、コンテナターミナル周辺の利用促進についてのお尋ねですが、苫小牧港管理組合は、苫小牧市や商工会議所、株式会社苫東などと構成する苫小牧地区企業誘致連絡協議会において、首

都圏などでのフェアやセミナーの開催、企業訪問などの企業誘致活動に取り組んでおります。

特に、苫小牧市と緊密な連携を図りながら、企業進出の動向やニーズの把握などに取り組んでおります。

今後も、コンテナターミナル周辺の利用促進を図るためには、ターミナル周辺地域への企業進出が重要と考えておりますことから、引き続き、協議会を構成する関係機関と連携を図りながら、企業誘致などに取り組んでまいりたいと考えております。

次に、北極海航路についてのお尋ねですが、アジアとヨーロッパを結ぶ北極海航路は、従来のスエズ運河経由に比べ、輸送距離は4割程度短縮されることで、運航期間の短縮や燃料費の削減などのメリットがある一方、通年運航ができず、船体は氷に耐えられる基準であるアイスクラスを取得するための割高な建造費や砕氷船のエスコートなどのデメリットもございます。

苫小牧港におきましては、かねてから北極海に近いことなどから、新たな航路として注目し、港湾機能や背後の広大な用地を有していることから、利用可能性の調査研究や、講演会、セミナーで優位性をアピールしてきたところでございます。

当管理組合といたしましては、こうした取組を積み重ねていくことで、国内外に北極海航路に熱心な苫小牧港を広く発信し、関係者に認知されることで、航路に関するさまざまな情報が提供される仕組みの構築が重要と考えており、昨年の2隻の寄港もその成果と考えております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） 港湾計画に関する御質問のうち、まず、これまでの整備状況についてのお尋ねでございますが、これまで港湾整備は、おおむね10年から15年先における港湾空間のあるべき姿の実現を目標とした港湾計画に基づき進めてきておりまして、現在は、平成19年度に改定した港湾計画で示した計画の物流、交流環境、安全の大きな3つの方針に沿って整備に取り組んでおります。

物流に関しては、東港区の中央ふ頭における国際コンテナターミナルの機能強化や西港区における西ふ頭岸壁でのROROターミナルの再編などに取り組んでまいりました。

交流・環境では、キラキラ公園の整備を行いまして、平成25年に全面的に供用を開始し、大型のイベントやクルーズ船寄港時の歓迎、交流の場所として利用されております。

3つ目の安全につきましては、大規模地震における港湾機能の確保のため、東港区と西港区にそれぞれ耐震強化岸壁などを整備してきております。

次に、長期構想のスケジュール変更についてのお尋ねでございますが、当初、長期構想を策定は平成29年度末を予定しておりましたが、これまで開催した2回の長期構想検討委員会では、西港区の一部の機能を東港区へ移転すべきなどの意見を多く頂戴したところでございます。

この検討につきましては、フェリー・RORO船といった定期船の運航や、穀物飼料の取り扱いなどの西港区の機能移転は、単に貨物を移すということにとどまらず、企業活動に直結する大

きな問題であることから、結果的には合意形成までには至りませんでしたが、関係者等から意見を伺うなど調整を重ねたため、時間を要したところでございます。

また、現在、国土交通省港湾局が策定中の港湾における中長期政策が本年夏ごろに最終報告される予定となっております。この内容にも注視する必要があると考えておりますことから、長期構想の策定スケジュールを平成30年度末に見直したところでございます。

続きまして、港湾機能の強化に関する御質問のうち、津波避難施設の進捗状況についてのお尋ねでございますが、ターミナルからの避難については、これまでの検討により、車両による浸水区域外への避難が可能であることが確認されたことから、避難タワーの建設は見送ることといたしまして、車両による避難を原則とする津波避難計画の素案をまとめたところでございます。

この素案をもとに、ターミナル関係者で構成する苫小牧港国際コンテナターミナル安全部会におきまして、具体的な避難経路や避難方法などの検討を重ね、昨年12月に苫小牧国際コンテナターミナル津波避難計画を策定し、同安全部会からターミナル利用者に周知されたところでございます。

なお、液状化などにより避難経路の走行ができないことへの万が一の備えといたしましては、来年度からターミナルに隣接して建設される予定の大型冷凍冷蔵倉庫に一時避難するものとしておりまして、この倉庫の設置者からは、当該避難計画につきまして御了解いただいているところでございます。

次に、漁港区に関する御質問にお答えいたします。

まず、漁港区将来ビジョンについてのお尋ねでございますが、漁港区将来ビジョンは、苫小牧港の特徴を生かし、水産を核とした魅力ある漁港区づくりを目標に掲げ、おおむね10年後をイメージした利用構想図の中で、将来の漁港区のあるべき姿を描いております。

本ビジョンの実現に向けましては、当管理組合はもちろんのこと、苫小牧市や漁業協同組合など関係機関がそれぞれの役割のもと、引き続き、具体的な取組を検討していくこととしておりまして、当管理組合では、昨年5月に、道内5港と連携して農水産物輸出促進計画を策定し、水産物の輸出促進に向けて屋根つき岸壁の整備を進めているところでございます。

引き続き、将来ビジョンの実現を目指しまして、関係機関と連携、調整を図りながら、ハード・ソフトの両面から取組を進めてまいりたいと考えております。

最後に、漁港区のPRについてのお尋ねですが、当管理組合が事務局を務める、みなとオアシス苫小牧運営協議会では、地元のホッキを使った水餃子などを活用し、全国規模のグルメイベントや苫小牧市民向けのイベントに出店するとともに、当管理組合のホームページの活用や地元新聞への情報提供により、イベント情報の発信などを行い、地元水産業のPRに努めているところでございます。

当管理組合といたしましては、漁港区や地元水産物の情報発信・PRにつきましては、苫小牧漁業協同組合や苫小牧市などの関係者による積極的な取組を期待するとともに、引き続き、関係

者と連携を図りながら、苫小牧の漁業の振興、発展に向けて協力してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 神山哲太郎君。

○議員（神山哲太郎君） 一通り御答弁いただきましたので、何点か再質問をさせていただきたいと思います。

まず、港湾計画でありますけれども、今、国内は、大都市圏以外では、ほとんどの市町村で人口の自然減が進んでいる状況であります。それに伴い、高齢化や雇用確保が問題となっております。先ほど、港湾の労働力不足ということを岩倉管理者も指摘をされておりました。港湾関係や物流関係企業でも人材確保が喫緊の課題であります。このような中での港湾機能の強化というものをどのようにされていくのか、また一方で、先ほどもありましたが、貨物船の大型化傾向であることに對しても対応が必要と考えられることから、１０年後、２０年後について、もう少し具体的に御説明をお願いしたいというふうに思っております。

次に、国際コンテナターミナルの一時避難施設の関係であります。

平成２９年１２月に従事者の命を守るための国際コンテナターミナル津波避難計画を策定し、関係機関に周知されたと御答弁をされました。その中で、非常に気になるのでありますけれども、原則、車両での避難が可能と判断されておりました。避難タワーではなく、ターミナル隣接の冷凍冷蔵庫に一時避難という形にされました。

そこで、今後の予定も含めて、まだ具体的内容になっていないかもしれませんが、一時避難施設の高さや収容人員など、大まかでも結構でありますので、想定されていることをお聞かせいただきたいと思います。

あわせて、最も大切なことは避難訓練であろうかと思えます。今後、訓練はいつごろ行うのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、ポートセールスについてお伺いいたします。

先ほどの御答弁では、海外セミナーを含め、継続して交流を行うことが大切であるということでありました。私も、さまざまな場面で交流が大切であると思えます。その交流のあり方について、今は官民一体や北海道とともに連携した取組となっております。自治体単体や一団体の努力だけでできるものではないと思えます。ただ、交流の基本である、例えば先につながることで、お礼を含めて親書などはどのようにされているのか。私は小さなことから始めていくことが大切だと思うものですから、くだらないと思うかもしれませんが、どのように考えているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

また、同一の都市へのポートセールスについてどのように考えているか、見解をお伺いしたいと思います。

最後に、漁港区の将来についてお伺いいたします。

交流人口を増やして活気ある港づくりをしていくことは重要なことと感じております。

最近では、ネットやSNSで漁港区の飲食店が口コミで広がっております。また、管理組合が中心となった動きは、クルーズ船からのお客さんをバスにて漁港区まで輸送し、新たな観光資源着手として努力され、大変好評だったと伺っております。今後の展開として漁港における観光のあり方についてどのようなイメージを持っているのか、お考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

以上で再質問を終了させていただきます。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 私からは、ポートセールスの一環として行っております海外セミナーについてのお尋ねに回答させていただきたいと思います。

海外セミナーの開催目的というのは、苫小牧港の取扱貨物量の増加に向けまして、民間企業のビジネスチャンスを見出していく機会を提供していくということが非常に大きなものだと考えております。もちろん、実施後に関係者の皆様方にお礼をしていくというのは当然のことではあります。通常の友好や親善を目的とした親書の交換などは行っておりません。

また、海外セミナーは、ビジネスチャンスをより広く提供するとともに、苫小牧港の認知度の向上を図ることが重要であるということから、その時の経済情勢や貨物の需要動向などを勘案いたしまして、優先して開催すべき場所を選定してきております。

このため、これらの状況によりましては、過去の開催地域においても再度開催していくということもあると考えております。

私からは以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） 神山議員からの再度の御質問にお答えいたします。

まず初めに、将来の苫小牧港における港湾の機能強化についてのお尋ねでございますが、我が国では、人口減少の進展などにより労働力不足が深刻化する中、港湾における荷役効率化を進めていくことは必要であるものと考えております。

このため、苫小牧港の港湾機能の強化といたしましては、長期構想の中で、本港地区におけるRORO船の荷役効率の改善を図るべく、上屋や倉庫を再編し、岸壁周辺にシャースヤードを集約していくこととしています。

さらに、コンテナターミナルにおきましては、海外で進められているターミナルの自動化の取組につきましても、長期的な施策として盛り込んでいきたいと考えております。

また、西港区のフェリーやRORO船は、限られた水域の中で大型化が進んでおりますが、穀物運搬船などは岸壁背後の土地利用が進んでいることから、航路の拡幅ができず、大型化が困難となっております。

このため、東港区において対応していくこととなりますが、現状では、背後企業の事業計画に

も大きく関わるため、東港区への展開は困難と考えております。

次に、国際コンテナターミナルの避難計画や一時避難施設などについてのお尋ねですが、国際コンテナターミナルの津波避難の検討では、当初、徒歩による避難を前提といたしまして、浸水想定区域内に避難タワーを整備することとしておりました。

しかしながら、詳細な避難計画を策定する過程におきまして、避難対象者数、津波到達時間、避難距離、ターミナル就労者へのヒアリングなどを総合的に勘案した結果、車両の使用が可能であることが確認されたことから、浸水想定区域外への避難を優先し、原則、車両による避難としたところでございます。

次に、液状化で避難経路が通行できないような万が一の際に一時避難場所として検討している大型冷凍冷蔵倉庫は、各階の面積が約4,000平方メートルの地上4階建てとして計画されておりまして、ターミナル就労者を収容するに十分な大きさと考えております。

また、ターミナル関係者による避難訓練につきましては、夏頃を予定しております。

最後となりますが、漁港区における観光のあり方についてのお尋ねですが、漁港区及びその周辺には、多くの市民、観光客が新鮮な海産物を求めて訪れ、特に漁港区で開催されているホッキ祭りは、バスツアーなどで苫小牧近郊から観光客が押し寄せるなど、にぎわいを見せており、地元水産品と港湾空間の連携によりまして、こうした状況をさらに拡大し、地域の活性化につなげていくことをイメージしております。

現在、漁港区では、地元水産品の輸出促進に向けまして、衛生管理型施設として屋根付き岸壁の整備を進めておりますが、こうした取組も苫小牧の水産品のイメージアップにつながりまして、さらなる集客の増加に貢献するものと考えております。

また、長期構想の中で、港湾空間の観光活用も港湾の役割の1つとしていることから、漁港区及びその周辺などのにぎわいづくりについても検討を行っておりまして、水産品など食を核とした観光拠点化に向けまして、市や水産関係者などの取組に協力してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 以上で、神山哲太郎君の一般質問を終了いたします。

工藤良一君。

○議員（工藤良一君） それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

質問項目は4つでございましたが、4番目の国内の港管理組合の実態と調査及び学習については、本来、議員協議会で提案させていくべきものということでしたので、これを取り下げさせていただきます。

それでは、質問をさせていただきます。

まず、座礁船栄丸についてでございます。

この船は、1月7日に離岸堤を離礁しましたが、50日間にわたって乗り上げた状態といますか、ちょっと隙間にはさまった状態で、天候も悪く、なかなか作業が進まなかったとい

うことでした。関係者の皆様は、積んである燃料を抜くということでは大変苦勞もされ
たし、また、対岸に住んでいる方々は、油の流出はなかったけれども、それに伴う油くささとい
うものがあつたというふうにもお伺いをしておりました。

そしてまた、今回、栄丸が座礁した場所に関しては、過去、この場所で、この地域でといいま
すか、エリアでといいますか、何度も何度も同じように座礁した船がございました。

これは、砂地ということもあるのでしょうか、これを防ぐ手立てを考える必要があると思
いますが、これについてまずお伺いをいたします。

そして、苫小牧港の特に西港は、船舶の出入口が狭く、近年、船も大型化する中で、大型船と
同様の事故が航路近くで起きないとも限りません。港湾を管理する責任を持つ苫小牧港管理組合
としてどのような対策を考えられておるのか、お伺いをしたいと思います。

次に、予備品の保管倉庫についてでございます。

平成29年8月30日開催の議会におきましては、新たな予備品保管倉庫の建設規模及び建設
費も当初計画よりも上回る予定であり、今年度末までに計画の見直しを行い、来年度の着工に備
えたいという御答弁がございました。保管倉庫の設計と建設予算がどれだけ増えるのか、また、
規模がどれだけ大きくなるのか、お伺いをいたします。

次に、民間企業によります大型冷凍冷蔵倉庫の新設が新聞などでも報道されております。これ
につきましては、道産農水産物、食品の輸出の拡大に必要なものと考えております。この計画が
どのようにつくられているのか。

以上の点についてお伺いいたします。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 工藤議員の御質問のうち、私からは、座礁船と大型冷凍冷蔵倉庫に
関してお答えさせていただきます。

まず、今後の座礁事故防止対策についてのお尋ねですが、本港では、苫小牧海上保安署が事務
局である苫小牧海上交通安全協議会で定めた合意事項について、船舶運航者に対し遵守を求めて
いるところでございます。

合意事項では、航路やその延長上にある一定の海域について、船舶航行に支障とならないよう、
錨泊禁止区域に定められているほか、苫小牧沖での錨泊に関して、南寄りの風が強くなる場合に
は、可能な限り錨泊は避けることや、やむを得ず錨泊するときは、見張りを立て、必要に応じて
走錨防止策を行うよう定められております。

また、走錨のおそれがある場合は、海上保安署が各船舶運航者に対し、機を逸することなく安
全な海域に避難するとともに、情報連絡の無線を継続聴取する旨を走錨注意情報として発信し、
注意喚起しております。

このたびの座礁事故を機に、協議会では、臨時総会を本日開催することとなり、協議会会員に
対して改めて錨泊時の注意喚起をするとともに、今後の再発防止に向けた対応策などについて議

論をする予定となっております。

当管理組合といたしましても、協議会のメンバーでありますことから、関係機関と協議を進めながら再発防止策について検討してまいりたいと考えております。

次に、大型冷凍冷蔵倉庫についてのお尋ねですが、苫小牧港東港区の大型冷凍冷蔵倉庫につきましては、苫小牧埠頭株式会社が事業を進めており、道内農水産物のポテンシャルと苫小牧港の物流拠点のアドバンテージを最大限に活用し、多様なニーズに対応できる温度管理型の冷凍冷蔵倉庫を建設することで、道内食品出荷の安定化や平準化、食品加工業の育成などで、道産食品の移出や輸出の拡大などへの貢献を目指すものと伺っております。

倉庫の概要につきましては、鉄筋コンクリート造4階建てで、収容能力2万1,000トン、冷凍・冷蔵・常温の多温度帯対応、環境に優しい自然冷媒の利用などの機能を有する道内最大級の施設となる予定とのことでした。

また、スケジュールは、昨年12月に倉庫の建設、保有を目的とする資産管理会社、北海道クールロジスティクスプレイス株式会社が設立され、3月ごろに施設の実施設計の完了後、施工業者の入札、7月ごろに着工し、平成31年度上期に完了する予定となっております。

私からは以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） 私からは、予備品保管倉庫の御質問にお答えいたします。

機材整備棟の設計と建設予算についてのお尋ねでございますが、平成29年度に建設を予定しておりました保管倉庫については、延床面積約250平方メートルで、建設費約8,000万円としておりましたが、見直しを行っている機材整備棟では、予備品の保管機能に加えまして、スプレッドの動作確認のためのスペースや、保守点検業者が常駐する事務室を新たに追加するため、延床面積を約700平方メートルに拡大するとともに、追加機能に必要な給排水設備や電気設備などの増加によりまして、その建設費は約3億4,000万円となっております。

なお、平成29年度に要する調査設計費は約2,800万円を見込んでおります。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 工藤良一君。

○議員（工藤良一君） ただいまの保管倉庫についてのみ、確認させていただきたいところがありますので、よろしくお願いいたします。

まず、面積は3倍、費用は4倍となりましたけれども、そのことをどうこうということではなくて、ガントリークレーンの安定稼働に向けて保守点検手法の見直しに取り組んでいる、そして、コンテナを保持する装置であるスプレッドの整備及び動作確認をするスペースの確保ということが新たに付け加えられたと思っています。

そこでお伺いしたいのは、そういう建物の中で、実際にはスプレッド修理等が可能な建物なのかどうか、その1点だけ確認させてください。よろしくお願いいたします。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、佐藤匡之君。

○施設部長（佐藤匡之君） ただいまいただきました再度の質問にお答えいたします。

スプレッドの新たな機材整備棟の中でのスプレッドの整備及び動作確認ができるのかという御質問だったと思います。

こちらにつきましては、今回検討しているスペースの中で整備等ができるものというふうに考えております。

○議長（神戸典臣君） 以上で、工藤良一君の一般質問を終了いたします。

首藤孝治君。

○議員（首藤孝治君） それでは、通告に従いまして、私からは、苫小牧港の物流量増加への取組についてと座礁船について質疑をさせていただきます。

苫小牧港の物流量増加への取組についてですが、今後、日本全国において少子高齢化による人口減少が続くと、当然、物流量の減少にもつながるため、現在の状況を維持・発展するためにも、国内・海外への積極的なアプローチを進め、結果にこだわり活動を進めることが非常に大切だと考えております。

その取組の一つといたしましてポートセールスを開催しておりまして、2011年の中国・上海での開催を皮切りに、本年1月には台湾にて開催されました。

私からは、第3回定例会におきましても、ポートセールスの取組状況につきまして確認をさせていただきましたが、このたび、台湾にて開催されましたポートセールスにおきましては、先ほど、開催内容の感触、今後の開催計画等につきまして答弁がありましたけれども、北海道は、2018年度までに食の輸出1,000億円を目標に食のPR事業を推進しておりますけれども、道産品の輸出拡大を進める上でも、道との連携というのが非常に欠かせないと考えております。

そこで、現在の連携状況や今後の課題があれば、まずお聞かせください。

続きまして、苫小牧港のさらなる物流増加において、RORO船の定期航路の増便や新規航路開設は非常に重要でありますけれども、新たな拠点港として中国地方とのつながりが検討されております。

中国地方の日本海側には、RORO船の国内定期航路を持つ港がないことから、敦賀港や舞鶴港にて荷物を降ろし、その後、陸送にて荷物を運ぶという状況であり、直接港へ荷物を運ぶ場合よりも半日から1日時間を要しており、中国地方の企業から定期航路化の要望があるとお聞きしております。

全国的にも、モーダルシフトの取組が加速していることもあり、このような状況に早期対応することで今後の物流量増加につながるものと考えておりますけれども、そこで、鳥取県堺港への試験輸送が2013年から17年まで7回実施され、定期航路化を検証されましたが、検証結果や課題をお聞かせください。

また、今後の新規航路開設に向けた取組状況についてもお聞かせください。

続きまして、座礁船について質疑いたしますけれども、先ほど工藤議員からいきさつ等についてはお話がございましたので、私からは質疑に入らせていただきます。

このたびの事故では、不幸中の幸いにも、乗組員の無事と重油の流出がなかったことが安堵されますが、万が一、状況が一変すれば大変な損害につながっていたと推測いたします。

このたびの事故につきましては、まず初めにお聞きしたいことは、苫小牧沖にて錨泊時、アンカーが引っかかりづらく、船舶が流されやすい状況があるとお聞きしたことがあります、この実情をお聞かせください。

次に、このたびの事故では、重油の流出はありませんでしたが、万が一重油が流出した場合の連絡体制や早期対応は確立されているのか、御見解をお聞かせください。

最後の質問になりますけれども、このたびの事故にて、漁業関係者への被害状況や近隣住民からの被害報告などはどのような状況にあったのか、御見解をお聞かせください。

これで1回目の質問を終わります。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 首藤議員の御質問にお答えいたします。

私からは、座礁船に関してお答えさせていただきます。

まず、苫小牧沖での錨泊時の実情等についてのお尋ねですが、苫小牧港周辺海域の海底地盤は砂質土でありまして、岩礁や泥質土などと比較しますと、アンカーがかかりづらい自然条件にあります。

本港では、利用船舶の安全運航確保のため、苫小牧海上保安署が事務局である苫小牧海上交通安全協議会において合意事項を定めております。合意事項には、入出航や気象等による注意事項のほか、苫小牧沖での錨泊に関して、南寄りの風が強くなる場合には、可能な限り錨泊は避けることや、やむを得ず錨泊するときは見張りを立て、必要に応じて走錨防止策を行うよう定められております。

また、走錨のおそれがある場合は、海上保安署が各船舶運航者に対し、機を逸することなく安全な海域に避難するとともに、情報連絡の無線を継続聴取する旨を走錨注意情報として発信し、注意喚起しております。

次に、重油が流出した場合の対応についてのお尋ねですが、本港におきましては、海上保安署が事務局となり、当管理組合を含む官民の港湾関係者で構成された苫小牧地区排出油等防除協議会が設置されております。

この協議会において、有事の際には、迅速かつ的確な防除対応を図ることができるよう、流出油防除マニュアルが作成されており、海上保安署からの連絡体制や防除作業の対応方法が定められているほか、協議会構成員による資機材の保有状況なども把握されております。

したがって、海上保安署から協議会構成員へ事態の一報が伝えられるとともに、油防除に係る資機材の提供と出動要請が発信されると、当管理組合や構成員は、人や資機材の提供など可

能な限り協力することとなっておりますので、早期対応は図られるものと考えております。

次に、漁業関係者や近隣住民からの被害報告についてのお尋ねですが、このたびの座礁船に係る対応につきましては、海上保安署を始め、苫小牧市消防本部、苫小牧警察署、苫小牧漁業協同組合など多くの関係者による連絡調整会議が開催され、当管理組合も会議に参加し、情報収集等を行っておりました。

座礁直後は、現場周辺で一時的に油臭はあったものの、油の流出は認められず、近隣住民からの被害報告などはございませんでした。

また、日々の作業計画や作業報告につきましては、海上保安署や漁業協同組合、船舶保険会社により毎日打合せを行い、被害が出ないように対応していたと伺っております。

なお、漁業協同組合に確認したところ、座礁船の撤去後、ホッキへの影響について、専門機関に調査を依頼しておりましたが、結果は問題なかったと伺っております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 港湾振興室長、池淵雅宏君。

○港湾振興室長（池淵雅宏君） 私からは、苫小牧港の物流増加への取組につきまして御答弁を申し上げます。

まず初めに、北海道の道産食品の輸出拡大推進の取組と連携しました海外ポートセールスについてでございますが、昨年度の海外ポートセールスは、シンガポールにおいて私どもは開催させていただきました。この際には、北海道の主催でございました北海道フェアや、北海道がシンガポールに開設いたしましたどさんこプラザ開設の式典に合わせまして、時期を一緒に開催して実施したところでございます。今回の台湾につきましても、同様に北海道主催のフェアや商談会に合わせて実施をしたところでございます。

こうした北海道との連携によりまして、現地で道産食品を扱う商社あるいは道内からの出店者が私ども港湾のセミナーに参加をいただくことで、本港の機能、役割などへの理解や、協議会関係者との情報交換などの効果が期待されるところでございます。

課題につきましては、道が実施するフェア等と利用促進協議会のセミナーを連携して実施するための日程あるいは地域の調整になかなか苦慮する状況がございます。

続きまして、境港における試験輸送の取組についてのお尋ねでございます。試験輸送を実施しました境港流通プラットフォーム協議会によりますと、苫小牧港と境港の試験輸送は平成25年から7回実施されております。主な輸送貨物は、苫小牧港からは新聞用紙や輸送容器、境港からは農業機械や洋紙などですが、実際に輸送された貨物量は、船の積載可能量の1割程度にとどまっていると伺っております。

現在の敦賀港から境港まで苫小牧からの航路を延ばすことによりまして、陸上輸送費は軽減されるものと考えておりますが、現在の就航便数を確保したまま実施するには、使用船舶の隻数を増やさなくてはならず、海上輸送費の増加につながるということが懸念されるところでござい

す。

最後に、新規航路の開設に向けた取組についてのお尋ねでございますが、新規航路の開設には、企業の進出や企業の事業が拡大することによりまして新たな貨物が創出されるほか、他港で取り扱っている貨物や海上輸送以外の貨物を苫小牧港が取り込み、貨物量の増加が必要となってくると考えております。

昨年の苫小牧港の取扱貨物量は過去最高となるなど、一定の貨物量はある状況となっておりますが、近年、苫小牧港に就航しておりますフェリーやRORO船は需要に応じて、大型化しており、輸送能力の向上に取り組んでいる状況でございます。

したがって、管理組合といたしましては、大型化しているRORO船の荷役効率の向上を図るために、岸壁の改良やシャーシヤードの整備を進めていくことにまずは取り組ませていただきまして、貨物をさらに増加させ、新規航路の開設につなげてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 首藤孝治君。

○議員（首藤孝治君） それでは、何点かに絞って再質問をさせていただきます。

まず、中国地方への新航路の件に関しましては、現時点ではなかなか難しいのかなというのはよく理解いたしました。続いて、ポートセールスにおいてのお話だったのですけれども、道との連携についての質問の答弁で、先ほど現地で動産食品を扱う商社や道内からの出店者がセミナーに参加することで本港の機能、役割などへの理解や協議会関係者との情報交換などの効果が期待されるとの答弁がありましたけれども、道内からの出店者がセミナーに参加する、この中にもものづくりのまち、産業のまち苫小牧をさらにアピールできるように、例えば、セミナー参加におきまして、苫小牧市の中小企業関係者を参加させることや、苫小牧市にはCCS事業などさまざまな最先端な取組もあります。企業関係者や最新技術をポートセールスの中に取り込み、苫小牧ブランドを売り込むことも非常に大切であり、私はその波及効果が全道に広がるであろうとも考えておりますけれども、御見解をお聞かせください。

続きまして、座礁船についてですけれども、苫小牧市港周辺海域の海底地盤は、アンカーがかかりづらい自然条件にある旨の答弁があり、南風が強い悪天候にて錨泊が必要なときは、特に座礁に注意する必要があることと、苫小牧海上交通安全協議会において安全運航確保のため、入出港におきまして合意事項を定めているということもよく理解いたしました。

しかしながら、現状の注意喚起にもかかわらず船舶が座礁しております。そのようなことから、現状の対策を見直して新たなルールづくりなど抜本的な対策が必要ではないかと考えておりますけれども、御見解をお聞かせください。

最後になりますが、万が一、船舶の座礁により重油が流出した場合におきましては、先ほど、流出油防除マニュアルにおいて連絡体制や防除作業が徹底されており、早期対応は図られるとの答弁がありました。これについては、非常に安堵するところではございますけれども、このたび

の座礁におきましては、漁業関係者や近隣住民から被害報告もなく、また、座礁船の撤去後もホッキへの影響もなかったという答弁がありました。私も現地に３回ほど行き確認しましたが、重油の流出がないにもかかわらず、非常に異臭があったのは事実で、多々不安もありました。今回の事故は、近隣住民だけではなく、苫小牧市全体の問題であり、座礁に至った理由から始め、漁業被害等もないという終息に至るまでの報告を今回の事故を起こした事業所側に求め、市民周知を図る必要があると思いますけれども、御見解をお聞かせください。

以上で質問を終わります。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 私からは、ポートセールスの一環の海外セミナーにおける市内の中小企業のセミナーへの参加についてのお尋ねに回答させていただきたいと思います。

当管理組合では、昨年度のシンガポールでのセミナーの開催に当たりまして、市内の食品企業にも案内をさせていただきましたけれども、残念ながら、参加される企業はございませんでした。また、道が実施しましたシンガポールや台湾での道産食品のフェアにつきましても、市内の企業の参加というのは残念ながらなかったということでございます。

現在、苫小牧市におきましては、需要開拓や販路拡大の取組への支援としまして、苫小牧市中小企業振興計画の策定に取り組んでいることから、市と連携を図りながら、今後のセミナー等の周知に取り組んでまいりたいと考えております。

また、セミナーにおきましては、苫小牧港周辺の状況といたしまして、大型冷凍冷蔵倉庫の建設など、取扱貨物量の増加につながっていくような取組についても説明しており、今後ともこういった情報について発信してまいりたいと考えております。

○議長（神戸典臣君） 総務部長、浅井孝人君。

○総務部長（浅井孝人君） 私からは、座礁船に関してお答えさせていただきます。

まず、抜本的対策についてのお尋ねですが、過去、発生した事故をきっかけに、協議会といたしましては、合意事項の遵守を求めてきたところであり、このたびの事故を踏まえて、改めて錨泊時の注意喚起を行うこととしております。

さらに、協議会として新たなルールづくりの可能性につきましても、今後、検討することとしております。

最後に、市民への説明についてのお尋ねですが、事故の発生当日に苫小牧市や海上保安署、漁業協同組合、管理組合など関係者が出席する連絡調整会議が開催され、栄丸の運航会社などから説明と謝罪がございました。

苫小牧市では、事故後、現場付近の町内会である第七親交会会長に状況報告を行っておりますが、その際、近隣住民へ油抜き取り作業に係る周知文の配布を要請されたため、運航会社及び船舶保険会社が周知文を配布したと伺っております。

また、栄丸が苫小牧港を出港した翌週の１月２日月曜日には、事態の終結について第七親交

会会長に報告しているとのことでございます。

苫小牧市議会には、事故後、文書により全議員への報告と、昨年１２月の所管委員会において、事故概要や経過説明をしていると伺っております。

いずれにいたしましても、このような事故における関係者間の情報共有や住民等への漏れのない情報提供を図っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 以上で、首藤孝治君の一般質問を終了いたします。

以上をもって、一般質問は全て終了いたしました。

○議員提案第１号 苫小牧管理組合議会議員の派遣について

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第６ 議員提案第１号「苫小牧港管理組合議会議員の派遣について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本件につきましては、提案説明を省略し、直ちに表決に付したいと存じますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

それでは、議員提案第１号についてお諮りいたします。

議員提案第１号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議員提案第１号は原案のとおり可決されました。

○閉会

○議長（神戸典臣君） 以上をもちまして、本議会に付議された案件はすべて議了いたしました。

閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本議会に付議された案件は、議案７件、議員提案１件であります。皆様方の御協力により滞りなく議了いたしましたことに、議長として厚く御礼を申し上げますとともに、議員各位の熱心な御審議を得ましたことに重ねて御礼を申し上げます。

以上をもちまして、平成３０年第１回定例会を閉会いたします。

（了）

午後４時０７分 閉会